

(5) 等級別原価計算・組別原価計算他

① 実際原価計算

実際原価計算における等級別原価計算・組別原価計算は、単純総合原価計算カスタマイズ時の追加対応になります。連産品の原価計算に関しましても、カスタマイズによる対応となります。

② 標準原価計算

標準原価計算における等級別原価計算・組別原価計算および連産品の原価計算は以下の通りです。

(1) 等級別原価計算 : (標準機能)の前述「(4)工程別原価計算の「分離型」(ブルー)」で表現するため、標準機能で行う場合は分離前後で品番を変え、前工程品番と後工程品番で「単位」が異なる場合は、それぞれの単位で「原単位」を設定します。その後、基幹システムの生産実績が正しく分離計算されていることを前提として、分離前後のそれぞれの品番の原単位×基幹システムの生産実績数で計算します。実際原価の分離計算は行いません。

(カスタマイズ)後工程品番の標準原価マスターに前工程品の等価係数を登録します。また実際原価も生産実績により分離計算も行います。

(2) 組別原価計算 : 組別原価計算とは、直接費・間接費ともいくつかの製品グループに分け、その後は組内で製品(製番)の原価計算を個別原価計算の方法に準じて行う方法です。従って、直接費が全て製品(製番)を直接指定している場合は、直接費を「組」に分解する必要がありません。

間接費に関しては、費目別計算段階あるいは部門別計算段階で、“製品グループ”に該当する区分に分けてから部門別配賦計算・製品別配賦計算を行うことで、組別原価計算と同等の計算方法となります。

(3) 連産品原価計算 : 連産品原価計算は、等級別原価計算、副産物原価計算は、同一行程で同一材料により生産される異種製品という点では同一ですが、①目的の主要製品が等価係数によって理論的に原価配分できるか否か？というポイントと、②完成品目が主副を区別できるか？という2つのポイントで区別されます。

等級別原価計算は上に述べた通り①等価係数+②全品目が主要製品。

連産品原価計算は、②全品目主要製品ですが、①等価係数が持てずないため、それぞれの市場価格割合で評価します。

副産物原価計算は、①等価係数は持てないのは連産品と同じですが、②主副では副次的な品目となります。一般的には別途原価計算を行わず、売却価格を原価より控除するか、あるいは営業外収益とする方法が一般的です。